

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所7号機のプラント全体の機能試験(起動試験)における
電動機駆動原子炉給水ポンプ給水流量調節弁の開度表示器不適合に係る
調査結果について

平成21年5月17日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所7号機は、平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震の影響により停止しておりましたが、平成21年5月8日よりプラント全体の機能試験を開始し、その後、計画的に試験を進めております。

平成21年5月15日、午後1時9分、主タービンを起動した後に、発電機の仮並列による発電開始の準備を進めていたところ、午後5時27分頃、「計算機検出器故障」の警報が発生し、その後、運転中の電動機駆動原子炉給水ポンプ(B)の給水流量調節弁の状態が正しく表示されなくなり、現場の弁の開度と異なっていることが確認されました。そのため、原子炉を未臨界状態^{*}にして、当該原子炉給水ポンプ(B)の給水流量調節弁の開度表示器を点検・修理・調整することとし、あわせて、もう1台ある電動機駆動原子炉給水ポンプ(A)の給水流量調節弁の開度表示器の点検も実施することといたしました。

(平成21年5月15日お知らせ済み)

調査の結果、給水流量調節弁を絞った状態で電動機駆動原子炉給水ポンプを運転していた際、当該弁に取り付けられている開度発信器に加わる振動により、開度発信器のゼロ点調整部等にズレが生じ、当該弁の開度表示が実際の弁の開度と異なる事象が発生したものと推定いたしました。

対策として、電動機駆動原子炉給水ポンプ(B)の給水流量調節弁の開度発信器を予備品に交換するとともに、ゼロ点調整部等を固定し、実際の弁の開度と開度表示が一致していることを確認いたしました。なお、現場に遠隔監視カメラを設置し当該部の開度を常時監視できるようにいたしました。

電動機駆動原子炉給水ポンプ(A)については、本年5月11日に当該ポンプを起動した際に、実際の弁の開度と開度表示にズレが発生したため、調整を行い正常な状態に復帰させておりました。その際、電動機駆動原子炉給水ポンプ

(B) の給水流量調節弁の開度表示については異常がないことを確認しておりました。

また、電動機駆動原子炉給水ポンプ (A) についても、本日、念のため予備品に交換するとともに、ゼロ点調整部等を固定し、実際の弁の開度と開度表示が一致していることを確認いたしました。

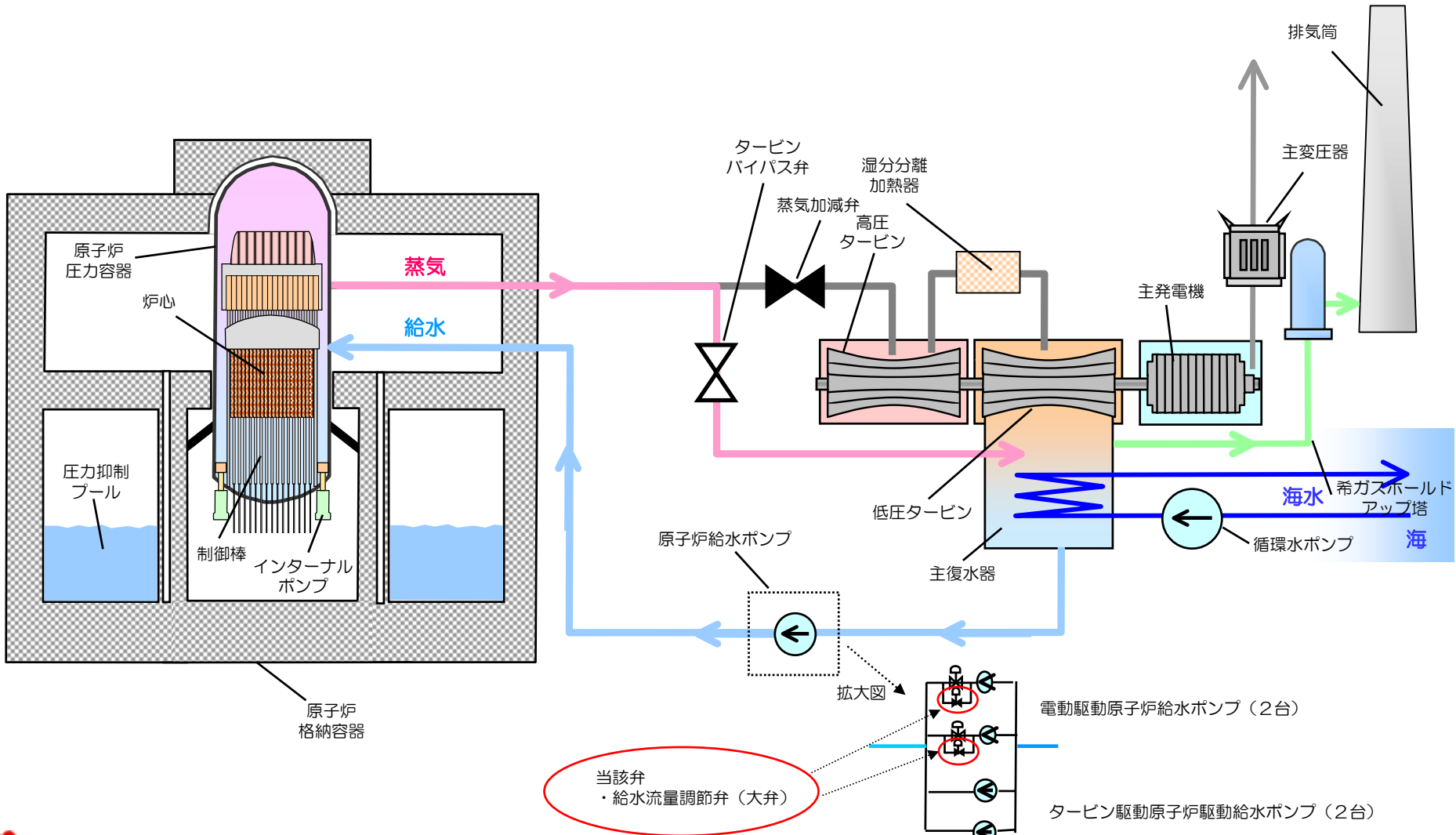
今後、準備が整い次第、制御棒の引き抜き操作を開始し、再度原子炉の昇圧を行い、プラント全体の機能試験を進めることといたします。

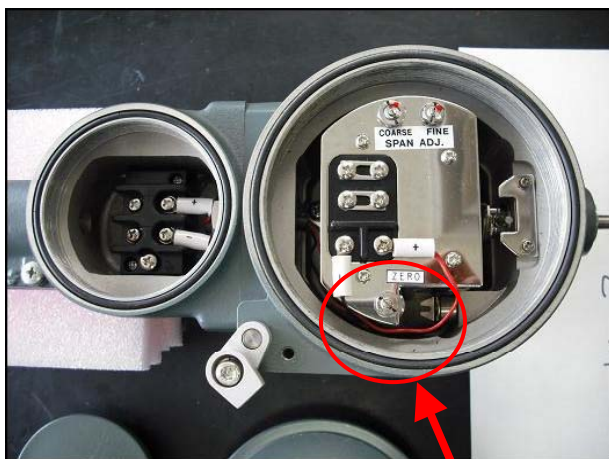
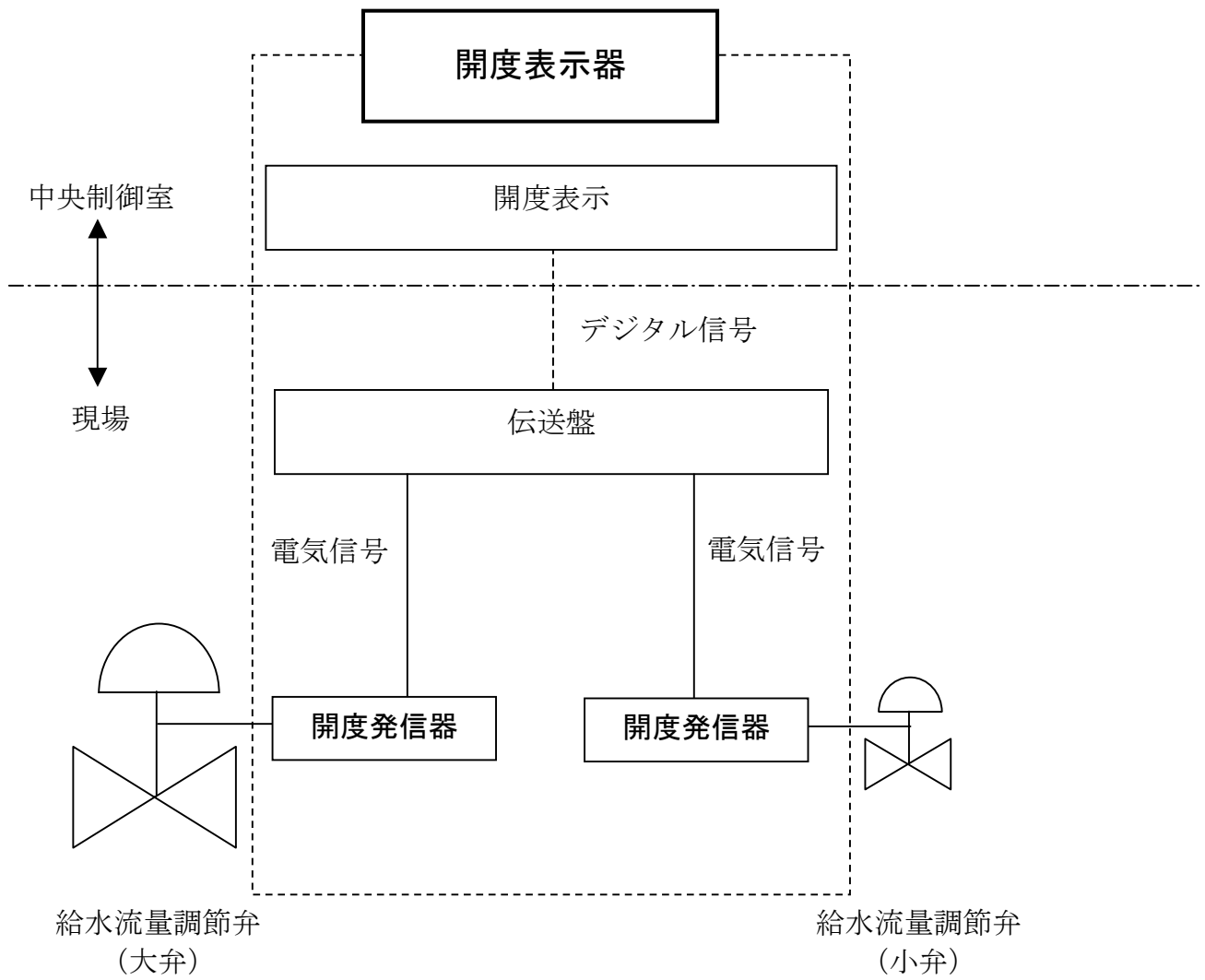
以 上

* 未臨界状態

核分裂の連鎖反応が持続しない状態。

(概略図) 給水ポンプと流量調節弁





給水流量調節弁 開度表示器の概要